



偕行社の改革について

理事長 森 勉

今年の干支は「癸卯（みずのとう）」で「これまでの努力が花開き、実り始める」という縁起の良い年だそうです。また、兎年は「飛躍・向上」の年でもあるそうです。子供の頃聞いた兎と亀の競争の童話で何故亀は兎に勝ったのでしょうか。「油断大敵」という教訓の他に亀はゴールへ到着するという目的とこれを達成するため着実に前進するという目標を理解していたが、兎は亀のことに考えがなかつたという深い意味を秘めている寓話ではないでしょうか。

戦いの原則の第一は目的の確立であり実際の作戦指揮に当って任務は目的と目標の何れかまたは両方を持って付与されます。高度な状況判断を必要とする高級指揮官には目的のみを、複雑な状況判断を必要とする中級指揮官には目的と目標の両方を、軽易な状況判断を必要とする初級指揮官には目標のみをもって任務は示されることが常道です。厳しい戦場において確実に任務を達成するには明確な目的の確立と具体的で達成可能な目標の設定が極めて重要です。

偕行社改革の目的は偕行社の光輝有る伝統と業績を継承し

将来に渡って組織の存続を図ることであり、その目標は財務状況の健全化を図り活動基盤を確保するための収支均衡予算の実現、従前会員の皆様に代わる新たな会員の確保により組織の維持・拡大を図ることです。このため数年に渡って各種事業を抜本的に見直すとともに、自衛隊幹部退官者有志のみではなく、国土防衛という同じ任務を持つ陸自の陸修会と組織的な合同のための協議を実施してまいりました。その結果を6月の評議委員会で承認を頂き、10月の総会で内外に表明し、来年度の4月から新たな体制に移行する計画です。

今後の偕行社の将来には、陸軍士官学校等の同窓会的組織として従来どおり維持するか、公益財団法人として英霊の慰霊顕彰等の公益事業に限定するかを選択肢がありますが、何れの場合でも活動基盤の維持等で組織の継続は不安定になる可能性があります。第三の道ともいえるべき偕行社と陸修会の組織的な合同は陸自が存在する限り新たな組織の中に偕行社が永遠に継承されることを意味します。偕行社の伝統と業績を確実に存続させるという目的を達成するため、収支均衡予算の確立、陸修会との合同という明確な目標を確実に実行することが肝要ではないでしょうか。兎年の干支に因んで偕行社の改革のこれまでの努力が花開き飛躍・向上する事を願っています。